

第二次 健康せいろう21・第二次 聖籠町まるごと食育計画・第二次 聖籠町

生涯歯科保健計画の 終期1年延長について

「健康日本21（第2次）」について

○厚生労働省は、8月4日、健康増進法に基づく「国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針」を一部改正し、令和4年度を終期としている第二次健康日本21の計画期間を1年間延長しました。

○改正により第二次健康日本21は、平成25年度から令和5年度末までの実施期間となるが、数値目標は現行のまま変更しないとしました。

○令和5年春頃を目途に、次期プランを公表し、令和6年度から実際に次期プランの開始を予定しています。

○都道府県、市町村においては、次期プランが公表され次第、令和5年度中に次期健康増進計画の策定の準備を進めるよう求めています。

今後の聖籠町の計画策定について

○厚生労働省の通知を受け、町の健康せいろう21計画に関しても、同じく終期を1年延長し、令和4年度に実施予定だった計画評価と次期計画の策定を令和5年度に実施します。

○「聖籠町まるごと食育推進計画」と「聖籠町生涯歯科保健計画」は、それぞれ独立した計画ですが、健康せいろう21計画を基礎として、整合性を持たせる必要があることから、同じく終期を延長し、評価の時期と次期計画の策定を令和5年度に実施いたします。

基本理念：「安心できる暮らしの実現」											
全体目標		ライフステージごとの行動目標					計画策定時	目標値	令和3年度の現状と取り組み (主なもの)	課題と今後の方向性	
生涯、健康に暮らせるまちづくり		乳幼児期 (0～3歳)	幼児・児童・生徒期 (4～15歳)	青年期 (16～39歳)	壮年期 (40～64歳)	高齢期 (65歳以上)	2017年	2022年			
基本方針		項目ごとの重点目標					評価指標 (主なもの)				
重症化予防の徹底	がん	① がん死亡率の減少 ② がん検診受診率の向上	早寝・早起き・朝ごはんを実践する	早寝・早起き・朝ごはんを実践する	朝食を食べる 主食・主菜・副菜をそろえた食事をする 脂肪・糖分・塩分をとりすぎない		聖籠町まるごと食育推進計画参照				
	循環器疾患	①脳血管疾患・虚血性心疾患の死亡率の減少 ②高血圧有病者の増加の抑制 ③脂質代謝異常有病者の増加の抑制 ④特定健診受診率の向上 ⑤メタボリックシンドローム該当者及び予備軍の減少	食品や献立に興味を持ち、いろいろな食事体験をする	バランスの良い食事をする	健康のための適正飲酒・休肝日を実践する						
	生活習慣病の発症予防と	①がん死亡率の減少 ②がん検診受診率の向上	外へ出かける	通学時はしっかり歩く	自分に適した体力の維持増進方法を身につける	自分に適した体力の維持方法を身につける	生きがいや趣味を続ける	意識的な運動の状況(いつもしている・時々している) 20～64歳	男性41.3% 女性31.3%	男性46.0% 女性40.0%	・コロナ禍の身体活動の減少が個々の課題となっており、特に高齢者は、足筋力の低下や社会活動の減少により認知症が悪化するなどで要介護状態へ移行したケースも増えた。 ・「健康づくりでポイ活事業」がスタート。町保健事業・スポネットせいらうの健康づくり事業が対象事業となり多くの町民から応募参加があった。 ・「新潟県ヘルス&スポーツマイレージ事業」と連携し働く世代の健康づくりの取組みとして、町内企業歩数ランキングイベントを開催した。
	糖尿病	①糖尿病有病者の増加の抑制 ②血糖コントロール不良者(HbA1c8.0%以上)の減少 ③合併症の減少(糖尿病腎症による新規透析導入患者数の減少)	親子遊びをとおして体を動かす楽しさを体験する	様々なスポーツを体験する	親子で運動やスポーツを楽しむ	仕事以外に生きがいや趣味を持つ	地域活動等に積極的に参加する	運動施設利用者(体育施設全体) ウォーキングロード登録数	小学生51.8% 中学生51.0%	小学生57%以上 中学生57%以上	・withコロナ、新しい生活様式の中に、身体活動をどの年代でも活発化させること、運動習慣を定着させるための工夫が必要。 ・「健康づくりでポイ活事業」「にいがたヘルス&スポーツマイレージ事業」との連携の周知を強化する。 ・電子メディアコントロールについて、健康づくり分野、教育分野と協働で積極的に推進していく。
	健康維持・増進するための取り組みの推進	①糖尿病有病者の増加の抑制 ②血糖コントロール不良者(HbA1c8.0%以上)の減少 ③合併症の減少(糖尿病腎症による新規透析導入患者数の減少)	規則正しい生活リズムを身につける	自分のからだを大切に、他者への思いやりをもつ	ライフスタイルに合わせた望ましいストレス対処方法を実践できる	こころの健康を維持し、生きがいを持ち続ける	睡眠の状況(あまりよく眠れない・不眠がちである) こころの不調への対処状況(どう対応したら良いかわからない)	男性35.1% 女性35.4%	男性31.0% 女性31.5%	・「聖籠町のちを支える自殺計画」について役場全庁、社会福祉協議会、小中学校へ進捗状況確認調査を実施した。 ・「お悩み相談会」は年2回開催。延べ33名の利用あり。 ・「ゲートキーパー養成講座」を開催。 ・商工会総会でアルコールをテーマとして資料を作成し配布・健康教育を実施した。東港立地企業連絡協議会でも資料を作成し配布。	
そ町民を主役の健康づくりと環境整備	①健康づくりに積極的に取り組む町民の増加 ②健康づくりに関する地区組織活動の活性化 ③地域のつながりを意識した、地区ごと(コミュニティ単位)の取り組み ④情報の発信 ⑤他関係部署・関係団体と協働の取り組み ⑥民間企業と協働の取り組み	たばこ「たばこの害を知り、喫煙防止・禁煙に取り組もう」	周りの大人が喫煙しない	たばこの害について知識を持つ	喫煙をすすめても断る	周りの大人が喫煙しない	健康のために喫煙しない 禁煙に取り組む 喫煙者は周りに配慮ができる	妊婦の喫煙率 未成年の喫煙率 受動喫煙(行政機関)	2.8% 1.90% 1.80%	0% 0% 0%	・母子手帳交付時、喫煙状況をアンケートで確認し、母が吸っていない場合でも夫が吸っている場合などもパンフレットを用いて周知している。 ・総合健診にて、喀たん検診希望者でかつ喫煙している方にリーフレットを配布し、タバコの害についての啓発を行った。 ・役場や保健福祉センター、結ハート等の関係施設に、禁煙や受動喫煙防止の啓発ポスターの掲示を行った。
健康維持・増進するための取り組みの推進	①健康づくりに積極的に取り組む町民の増加 ②健康づくりに関する地区組織活動の活性化 ③地域のつながりを意識した、地区ごと(コミュニティ単位)の取り組み ④情報の発信 ⑤他関係部署・関係団体と協働の取り組み ⑥民間企業と協働の取り組み	アルコール「アルコールの適量を知り、上手に付き合おう」	母親が妊娠中・授乳中に飲酒をしない	アルコールの害について知識を持つ	飲酒をすすめても断る	周りの大人が飲酒をすすめない	健康のための適正飲酒・休肝日を実践する	妊婦の飲酒率 未成年の飲酒率 飲酒頻度(毎日) 生活習慣病リスクが高まる量の飲酒	0.0% 15.40% 男性46.9% 女性12.1%	0% 0% 男性30%以下 女性5%以下	・母子手帳手続き時に、アンケートで飲酒状況を把握。飲酒者には、飲酒のリスク等を説明している。 ・商工会総会でアルコールをテーマとして資料を作成し配布・健康教育を実施した。東港立地企業連絡協議会でも資料を作成し配布。 ・活用塾にて働き盛り世代への訪問事業の報告。働き盛りの飲酒状況から全ての会場で話が盛り上がり、毎日飲酒している人が多いこと、生活習慣病のリスクが高まる量を飲酒している人が多いことがうかがえた。
そ町民を主役の健康づくりと環境整備	①健康づくりに積極的に取り組む町民の増加 ②健康づくりに関する地区組織活動の活性化 ③地域のつながりを意識した、地区ごと(コミュニティ単位)の取り組み ④情報の発信 ⑤他関係部署・関係団体と協働の取り組み ⑥民間企業と協働の取り組み	歯の健康「いつまでも自分の歯で快適生活を送ろう」	寝かせた姿勢で仕上げみがきを行う	食後と寝る前の歯みがきの習慣を身につける	小学校6年生まで1日1回は大人が仕上げみがきを行う	おやつは大人が時間や内容を決め与える	かかりつけ歯科医で定期的に歯科健診を受ける 食後と寝る前の歯みがきの習慣を継続する	活用塾参加者率 聖籠町が実施する胃がん検診受診率 聖籠町が実施する大腸がん検診受診率 聖籠町が実施する子宮頸がん検診受診率 聖籠町が実施する乳がん検診受診率	10.4% 10.3% 15.7% 19.3% 21.5%	13.0% 12.0% 18.0% 21.0% 23.0%	・健診結果活用塾は、12月のみ開催した。 ・町独自の胃・大腸がん検診無料クーポン事業は開始から3年目。クーポンの利用者数は、年々増加している。 ・各種がん検診の受診率向上のため、広報や勧奨ハガキ、日々の保健師活動を通して地道に受診勧奨を行った。 ・子宮頸がん検診は、隔年検診となって2年目。 ・精密検査受診率向上に向けて、未受診者への受診勧奨を行った。
健康維持・増進するための取り組みの推進	①健康づくりに積極的に取り組む町民の増加 ②健康づくりに関する地区組織活動の活性化 ③地域のつながりを意識した、地区ごと(コミュニティ単位)の取り組み ④情報の発信 ⑤他関係部署・関係団体と協働の取り組み ⑥民間企業と協働の取り組み	健康管理「自分の健康状態を知り、生活習慣病の早期発見・早期治療で重症化を予防しよう」	規則正しい生活リズムを家族ぐるみで実践できる	規則正しい生活リズムを家族ぐるみで実践できる	規則正しい生活リズムを実践できる	規則正しい生活リズムを実践できる	定期的に体重測定・血圧測定をする	活用塾参加者率 聖籠町が実施する胃がん検診受診率 聖籠町が実施する大腸がん検診受診率 聖籠町が実施する子宮頸がん検診受診率 聖籠町が実施する乳がん検診受診率	10.4% 10.3% 15.7% 19.3% 21.5%	13.0% 12.0% 18.0% 21.0% 23.0%	・健診結果活用塾は、12月のみ開催した。 ・町独自の胃・大腸がん検診無料クーポン事業は開始から3年目。クーポンの利用者数は、年々増加している。 ・各種がん検診の受診率向上のため、広報や勧奨ハガキ、日々の保健師活動を通して地道に受診勧奨を行った。 ・子宮頸がん検診は、隔年検診となって2年目。 ・精密検査受診率向上に向けて、未受診者への受診勧奨を行った。

基本理念：「安心できる暮らしの実現」		評価指標 (主なもの)		計画策定時	目標値	令和3年度の現状と 取り組み (主なもの)	課題と今後の方向性		
基本目標	ライフステージに応じた行動目標			2017年	2022年				
<p>基本目標</p> <p>聖籠町の産物を活かし他職生活で、家庭や地域の健康とコミュニケーションを育てよう</p>									
基本方針									
<p>「命の原点」 食を通じた健康づくりを実践します</p>	<p>「乳幼児期」 ・早寝、早起き、朝ごはんを実践する ・食品や献立に興味を持ち、色々な食事体験をする ・一家団らんで楽しく、おいしく食事をする</p>	朝食の欠食率	小学生	11.10%	0.00%	<p>○令和2年度から、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、食育事業が中止・縮小されている。令和3年度も影響を受けている状況にある。</p> <p>○子どもの肥満が増加、悪化している。(小学生：H29年度 9.09% → R3年度 11.5% 中学生：H29年度 7.52% → R3年度 10.4%) 体育や身体活動等で感染対策に配慮した制限があったり、家庭で過ごす時間が増えていることもあり、生活習慣の変化が子どもたちにも起きている様子が見える。</p> <p>○個別に肥満解消に向けて保護者との面談等の支援や集団の食育事業の代わりに年長クラスのみ食育授業の充実を図った。</p> <p>○減塩生活の意識づけと定着に向け、減塩月間を継続実施している。新たに連携して取り組む飲食店を増やし(R3より居食亭ほうせい丸)、また「健診結果活用塾」や「学校給食」「町健康づくり支援店との協働」「町立図書館」との連携をしている。</p> <p>○医療機関連携を継続し、国保診療所では情報提供コーナーを設置した。</p> <p>○「外食産業と連携した食生活改善事業」として、町の協力企業、店舗の掘り起こしを進めている。今年度は、「ほうせい丸」、「さぶ〜ん館 湯楽」と減塩月間メニューの提供を実施した。</p> <p>○広報誌の「食は味楽来」のコーナーにて、町の現状紹介や望ましい食事の定着に向けて情報発信を継続している。</p>	<p>○生活習慣病予防として健康的な食生活を実践する人を増やすためには、地域や地元企業や飲食店等の参加協力をさらに進め、地元野菜摂取や減塩生活を進める機会を増やしていくことが必要となる。</p> <p>「外食産業と連携した食生活改善事業」をさらに展開し、「ポイ活事業」ともつなげ、地元の民間機関等の連携を拡げる取組を進めていく。</p> <p>○町の事業と連携する店舗を新事業「町登録の健康づくり支援店」として登録し、より活発に連携・協働の取り組みを推進していく。</p> <p>○食に関する情報・知識を町HPやSNS等の情報発信ツールを活用し、普及啓発を強化していく</p>		
<p>「地域の食文化」 郷土食や食文化とともにふるさとを愛する心を次世代に伝承します</p>	<p>「園児・児童・生徒期」 ・早寝、早起き、朝ごはんを実践する ・主食、主菜、副菜をそろえたバランスの良い食事をする ・一家団らんで楽しく、おいしく食事をする ・食に関する知識の習得や健康に配慮した食を選択できる力を身につける ・農業、漁業体験に積極的に参加し、地域特性や特産物を知る ・郷土料理や伝承料理等、食文化の関心や理解を深める</p>	1日2回は主食・主菜・副菜のある食事をする人の割合	男性	68.1%	80.0%				
			女性	77.6%	80.0%				
			野菜・きのこ・海藻を1日に3皿以上食べる人の割合	男性	21.7%			現状値以上	
				女性	39.8%				
			減塩に取り組んでいる人の割合	男性	42.8%			47.1%	
				女性	64.9%			71.4%	
		学校給食における聖籠産物使用割合		*2	現状値維持				
				野菜20.3%					
		<p>「地産地食」 食の生産、流通、消費について理解を深め、地域の活性化を図ります</p>	<p>「青年期・壮年期」 ・朝食を食べる ・主食、主菜、副菜をそろえた日本型食生活をする ・脂肪、糖分、塩分をとりすぎない ・健康のための適正飲酒、休肝日を実践する ・家族や仲間と食事を楽しむ ・安全、安心な食品を選択する、食べ残しが出ない計画的な買い物や料理をするなど「環境意識の高い消費者」になる ・地場産物の魅力や特徴を理解し、地場産物を生かした郷土料理、食文化を次世代に伝える</p>	食材の安全性や生産地等の考慮(いつもしている)	男性			16.3%	50%以上
					女性			33.7%	
<p>「食は味楽来」 食事の重要性、食事の喜び、楽しさを推進します</p>	<p>「高齢期」 ・朝食を食べる ・多様な食品で過不足なくバランスのとれた食事をする ・脂肪、糖分、塩分をとりすぎない ・健康のための適正飲酒、休肝日を実践する ・家族や仲間と食事を楽しむ ・安全、安心な食品を選択する、食べ残しが出ない計画的な買い物や料理をするなど「環境意識の高い消費者」になる ・地場産物の魅力や特徴を理解し、地場産物を生かした郷土料理、食文化を次世代に伝える</p>	町の健康づくり事業に協働する健康づくり支援店等		2店舗	5店舗				
			食に関するサポーターの増加	食生活改善推進協議会会員数	27名			現状維持	
		地域支援登録者数(食文化郷土・)		78名	100名				
		食育への関心(関心がある・どちらかといえば関心がある)			62.9%	69.2%			
食育の実践度(積極的、できるだけするようにしている)(再掲)			28.1%	60%					
1人で(子どもだけで)食事をする者の割合		こども園	20.0%	現状値以下					
		小学校	19.3%						
		中学校	35.0%						

基本理念：「安心できる暮らしの実現」		評価指標 (主なもの)	計画策定時		令和3年度の現状と 取り組み (主なもの)	課題と今後の方向性
基本目標	ライフステージに応じた行動目標		2017年	目標値		
基本方針			2017年	2022年		
いつまでも自分の歯で快適な生活を送ろう	『むし歯・歯周病予防と口腔機能維持の徹底』	歯石の除去や歯面清掃の歯科医院での受診(定期的に行っている)	全体	19.00%	25.00%	○3歳児むし歯有病率は、昨年よりも改善(R2年度 11.5% → R3年度 5.9%)しているが、目標値には至らず。引き続きおやつや甘味飲料などの生活習慣の指導が必要。 ○幼児歯科健診、フッ化物塗布は継続して実施。また、新型コロナウイルス感染症対策で、三密回避のため妊婦歯科健診をマタニティ教室と離して2歳6ヶ月児と3歳6ヶ月児歯科健診と同日実施とし、上限5名の予約制とした。 ○地域学校保健委員会(子ども教育課主催)実施。コロナ禍により中止になっている園小中のフッ化物洗口の再開については、コロナ陽性者発生状況により再開の見込みも無し。次年度再検討予定。 ○地域のお茶の間に来ている方を対象とした歯科衛生士による高齢者オーラルフレイルについての健康講話を山大夫で実施。 ○成人歯科健診、後期高齢者歯科健診を実施したが、成人歯科健診受診率は9.7%と低迷。 ○後期高齢者歯科健診は昨年よりも受診者数は増加。(R2年度 17人(8.1%) → R3年度 23人(12.5%))
		自分の歯の本数	24本以上60歳(55歳～64歳)	81.10%	90.00%	
20本以上70歳(65歳～74歳)	62.30%		65.00%			
20本以上80歳(75歳～84歳)	32.30%		35.00%			
歯みがき時の歯間部清掃器具の使用	全体		45.10%	50.00%		
一口30回かんで食べる意識	全体		14.00%	15.00%		
『年齢層に応じた町民一人ひとりの意識向上と実践支援』	『町民が主役の健康づくりとそれを支援する環境整備』	過去1年間に歯科健康診査を受診した者の増加	全体	52.20%	55.00%	
		むし歯のない3歳の割合	全体	*1 95.7%	96.00%	
『ハイリスク者へのきめ細かな支援』	『ハイリスク者へのきめ細かな支援』	甘味飲料を飲まない3歳児	全体	12.60%	31.00%	
		フッ化物歯面塗布を受けたことがある幼児の割合(1～4歳)	全体	*1 88.20%	90.00%	
		むし歯のない5歳の割合	全体	*1 62.00%	68.00%	
		仕上げみがきがされている幼児の割合(こども園児)	全体	86.00%	95.00%	
		12歳児一人平均むし歯本数	全体	*1 1.13本	1.00本	
		12歳児のう蝕のない者の増加	全体	*1 53.90%	59.00%	
		妊婦歯科健診の受診率	全体	29.00%	40.00%	
成人歯科歯周疾患健診の受診率	全体	11.20%	12.00%			
		在宅用介護者等訪問歯科健診の件数(県事業)	全体	0件	増加	

*1 平成28年度
*2 平成29年度